

Title	大学の新しい英語強化プログラム（共同研究報告：英語教育研究）
Author(s)	小林, 雅博
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.18-No.2, 2008.9 : 21-22
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4763
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

【英語教育研究】

大学の新しい英語強化プログラム

2008年6月2日、今年度の第1回英語教育研究会が開かれ17名の参加者があった。今回は東仁美・聖学院大学人文学部欧米文化学科講師より、今年度から大幅に刷新された大学の英語強化プログラムについての報告があった。

この新カリキュラムは、いま求められている英語教育のニーズに応え、やる気のある学生を集めるために1年間をかけて作られたもので、「面倒見のよい」「入って伸びる」聖学院大学の教育を英語において具体化したものである。その特長は、学生の目的（留学したい、教員になりたい）とレベルに合わせて段階的に目標を達成できるようにいくつかのコースを設定し、少人数クラスや個人指導などのサポート体制を組み合わせている。今回の発表では留学を目指す上級クラスのプログラムを中心に紹介されたが、上級においては1年次の必修科目を飛び級して特別の時間割を組むことができ、1年次から留学準備科目やTOEFL科目を履修できる。また自学自習のサポートとしては、外国人教師による個別指導やEラーニングの整備があり、さらに入学前における特別講座や留学アドバイザーによる相談、奨学金付きの学内スピーチコンテストなど、学生のやる気を引き出す工夫もなされている。また留学について今回特筆すべきことは、提携する大学と聖学院大学との両方で卒業の資格が取れる dual degree の制度を設けたことで、例えば3年春学期まで聖学院大学で単位を取り、オグルソープ大学で2年間学んで卒業し、聖学院大学の卒業レポートを出せば両方の学位が取れる。この場合1年間は聖学院大学の学費で学べるので経済的にも負担が少なく、またアトランタ国際学校の協力も

あるのでリスクを回避できるという利点がある。その他の提携校についても、聖学院は他の大規模校に較べて希望する学生に対してそれを受け入れる大学が充実しており、長期の留学から短期の語学研修に至るまで各々のレベルに応じた留学への可能性が開かれている。

今年始まったばかりの上級クラスには現在留学生も含めて約10名の学生がおり、その授業の様子もビデオで紹介されたが、留学生と対等に話せるような高い英語力が要求される授業であった。これはたいへん意欲的な改革であり、中学校高校の先生方からも反響があった。この新しいプログラムが成果を上げて聖学院から真の国際人が巣立つことを期待したい。

(文責：小林雅博、聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科 博士後期課程)

(2008年6月2日、聖学院生涯学習センター)